

1 基本手順

●ブレードピッチとはブレード面の傾き具合のことで、ブレードの深さに大きく影響する重要な要素ですが、基礎を正しく理解した上で、実際に、技術、ワーク高、ブレードピッチの、どれがどのように効いているかを分析しなくてはなりません。視力障害がある場合、ブレードで起きている現象の観察に制約がありますが、ブレードとオールロックで起きている現象をハンドルの動きと感触から、船体の挙動をシートとストレッチャーから、読みとることに挑戦しましょう。最初は、サポーターの観察・レポートを頼りに、起きている現象を手と体で感じる状況とを結びつけて理解し、どのような感触がうまく漕げていることなのかを理解し、その感触を実現する方向にテクニックやリギング、ここでは主にピッチを調整していくことになるかと思えます。試漕と調整を繰り返す地道な作業になります。どこまでできるか未知数ですが、新しいノウハウを開拓しましょう。

●ブレードピッチの最適化のための観察のポイントは、テクニック、ハイト、シャフトの入水角度、左右のバランスの変化などに注意しながら、数ストロークの観察で、ドライブ中の、ブレードの押しと深さの変動を抽出することです。

2 ブレードピッチの基本

●ブレードピッチの基本的な設定は、以下のようなものです。

- マコン、ビッグブレードでは、ブレードピッチの初期設定を 5° とします。スーシーも（推奨値は $2\sim 3^{\circ}$ ですが） 5° が必要と考えています（測定法に注意）。
- キャッチ側で少し大きくしますが、全体の変動幅を大きくしないことが大切です。
- ラフでは、不安定な切りこみのリスクを減らすため、わずかな増加（最大 $+1^{\circ}$ ）が許容できますが、基本的には変えず、ハイトを少し上げることで対応します。
- 初心者でピッチを大きくするのは、必ずしも推奨しません。一時的な適用は別として、過度に大きい状態で長い間漕ぐべきではありません。
- リガーの剛性不足に対して、特にキャッチ側で少し増やすことは妥当です。
- キャッチ、ミドル、フィニッシュの3ポジションで測定する方法は、中間での不適切な変動を見逃す恐れがあります。中間の変動を正しく理解しておきましょう。

3 ブレードの浮き沈みをうまく調整できない原因

- うまくピッチを設定できないときの原因には、以下のようなことが考えられます。
- リギングはなくテクニックの問題を、リギングで直そうとして、悪循環に陥っている。
- ワーク高の問題を、ピッチで解決しようとしている。
- 他のポジションに原因があるのに、症状が現れたポジションを調整しようとしている。
- ファイナルで水に押されて抜けにくいのに、ピッチを増やそうとしている。
- 艇の傾きによる、特にファイナル側で、傾いたサイドのピッチの減少が生じている。
- オールロックとスリーブの不適合。形状の問題、変形、ワーク高の過小などで、オールロックの中で、ドライブ状態でオールロックにスリーブが正しく圧接されない。
- ブレードやシャフトのねじれ。
- 不正確な角度計や計測方法による、計測の誤り。